

第5回瀬戸市基本構想審議会協議事項要旨【R8.7.23開催】

《委員一覧》

	所属等	氏名	分野等
1	南山大学総合政策学部教授【会長】	石川 良文	都市環境政策、地域経済、政策評価
2	株式会社官民連携事業研究所	鷲見 英利	官民連携
3	ラジオサンキュー(RADIOSANQ) 瀬戸市障害者地域自立支援委員会	林 ともみ	福祉（障害者福祉）、マスコミ
4	大橋運輸株式会社 ※欠席	橋本 美香	ダイバーシティ、LGBTQ
5	多文化ソーシャルワーカー ※欠席	神田 すみれ	多文化共生、外国人の社会参画
6	朝日インテック株式会社	梅村 佳範	地域経済、地域産業
7	名古屋大学情報学部教授	浦田 真由	地域DX、DX推進、オープンデータ推進
8	株式会社PoliPoli	伊藤 和真	GovTech（政治・行政×テクノロジー）
9	東海旅客鉄道株式会社事業推進本部	吉澤 克哉	関係人口創出
10	瀬戸くらし研究所／株式会社きんつぎ	野々垣 賢人	地域デザイン
11	土街人プロジェクト／双寿園	石川 圭一	ローカルコミュニティ、地域課題・魅力の見える化
12	愛知産業大学通信教育部造形学部准教授	堀部 篤樹	建築計画、住民参加型まちづくり
13	名古屋学院大学現代社会学部准教授	水谷 香織	社会的合意形成、参加協働、社会基盤計画

《協議事項》

1 基本構想 将来像について

①共有された方向性

- ・「混ざって生まれる。」を将来像の核となる考え方とし、その状態を表現する言葉としては、「化学変化がめぐるまち」が将来像の趣旨に最も合うとの意見が多く示された。
- ・「化学変化」や「混ざる」という考え方は瀬戸らしさを表現するものとして評価された一方、市民に分かりやすく伝えるための表現や説明について、更なる工夫が必要との認識が共有された。

②委員意見要旨

- ・「混ざって生まれる。」が今回の将来像の核となる考え方であり、「輝く」よりも「めぐる」又は「息づく」の方が、化学変化が起こり続ける状態を表現できる。【梅村委員】
- ・「混ざる」はひらがなの方が柔らかく伝わる。また、「化学変化が起こるまち」のような分かりやすい表現や、「交わる」という言葉も検討できる。【林委員】
- ・「息づく」は日常に根付いた状態を、「めぐる」は新しい価値が循環し続ける状態を表現しており、将来像には「めぐる」の方が合っている。また、「混ざる」は瀬戸らしさを表す言葉として良い表現である。【野々垣委員】
- ・「融合」と「挑戦」という瀬戸らしさがより明確になった。「めぐる」は新しい価値が循環する様子を表現できる一方、「化学変化」は温かみが伝わる説明が必要であり、「混ざる」ことで生じる摩擦も前向きに捉えるという考え方が伝わると、より共感される将来像になるのでは。【吉澤委員】

- ・当初は「輝く」が良いと考えていたが、「めぐる」が最も将来像に合っていると感じた。また、「混ざる」ことで生じる摩擦も前向きな変化につなげる視点は重要である。【堀部委員】
- ・将来像に込めた考え方が市民に分かりやすく伝わるのが重要であり、「混ざる」ことで生じる課題を乗り越え、新たな価値につなげる考え方を大切にしたい。【石川委員】
- ・「化学変化」は興味を持つきっかけにもなる言葉であり、その意味や考え方を継続的に発信し、市民へ丁寧に伝えることが重要である。【野々垣委員】
- ・市民が親しみを持ち、共感できる将来像とするため、将来像を描く目的や、実現後の暮らしがイメージできる表現が重要である。【水谷委員】
- ・説明文は瀬戸の歴史やアイデンティティが分かりやすく整理されている。「混ざって生まれる。」の実現には、人や活動が自然に出会う場づくりが重要である。【伊藤委員】
- ・「めぐる」は前向きで、新しい価値が生まれ続ける世界観や、「人×コト×せと」の考え方とも親和性が高く、瀬戸らしさを表現できるのでは。【鷺見委員】
- ・「めぐる」が最も将来像にふさわしい。また、「めぐる」ことで目指す未来も伝わる表現となることが望ましい。【浦田委員】

2 基本構想 構成イメージについて

①共有された方向性

(1)基本構想全体の構成・ストーリー

- ・基本構想全体については、「なぜ化学変化なのか」という考え方から、将来像、施策の大綱へとつながる流れがおおむね分かりやすく整理されているとの認識が共有された。
- ・一方で、市民がより理解しやすい基本構想となるよう、構成や表現について引き続き工夫していく必要があることが確認された。

(2)将来像を伝える表現・デザイン

- ・将来像や基本構想の内容については、イラストやデザインなども活用しながら、市民が未来の瀬戸を具体的にイメージできるよう表現していく方向性が共有された。

(3)市民への情報発信・共有

- ・基本構想は、冊子だけでなく、多様な媒体を活用しながら、市民に分かりやすく伝え、理解や共感を広げていくことが重要との認識が共有された。

(4)瀬戸らしさの表現

- ・基本構想では、瀬戸が培ってきた歴史や文化、挑戦する気質など、瀬戸ならではの魅力や強みを分かりやすく表現していく方向性が共有された。

②委員意見要旨

(1)基本構想全体の構成・ストーリー

- ・基本構想全体はこれまでの議論を踏まえ、よく整理されている。また、「2040年の社会と瀬戸市が目指す方向」は、社会の変化と目指す方向が対比され、分かりやすく整理されている。【堀部委員、野々垣委員】
- ・「私たち一人ひとりの変化」という表現は、「行動」や「チャレンジ」など、より前向きな表現が望ましい。【野々垣委員】
- ・「瀬戸らしいダイバーシティを実現する」を最初に配置した考え方は理解した。一方、やきものづくりの工程に沿った構成も考えられる。【林委員】
- ・人口推計は100～150年程度の長い時間軸で示すことで、現在が転換点であることや、今取り組むべきことがより伝わる。【水谷委員】

- ・「2040年の社会と瀬戸市が目指す方向」と施策の大綱との関係が分かる構成となることで、基本構想全体の理解が深まる。【浦田委員】

(2)将来像を伝える表現・デザイン

- ・表紙や2040年を表現するイラストは、市民が将来をイメージしやすく、より印象に残るデザインが望ましい。【堀部委員】
- ・将来像を表現するイラストは、多様な市民が参加するワークショップ形式で制作する方法も考えられ、その取組自体が瀬戸らしい将来像づくりにつながる。【石川委員】
- ・「瀬戸らしいダイバーシティを実現する」の内容や、「化学変化をともに起こす仲間を増やしていく」という考え方が、将来像やイラストにも反映されると、目指す姿がより伝わる。【水谷委員】
- ・イラストも活用しながら、若い世代から高齢者まで幅広い世代に伝わる基本構想となることが望ましい。【伊藤委員】

(3)市民への情報発信・共有

- ・基本構想の内容は、冊子だけでなく、説明会や様々な媒体を活用し、市民との対話を重ねながら理解を深めることが重要である。【堀部委員】
- ・基本構想は作るだけでなく、市民や市外の方へどのように伝え、巻き込んでいくかが重要である。ホームページだけでなく、SNSやLINEなど様々な媒体を活用し、市民が自然と計画に触れられる工夫が望ましい。【伊藤委員】

(4)瀬戸らしさの表現

- ・瀬戸らしさが伝わる「尖った」基本構想とすることが重要である。千年を超えるやきものの歴史や文化など、瀬戸ならではの強みを前面に打ち出すことが望ましい。【伊藤委員】

《報告事項》

1 基本計画について

①報告内容

- ・基本計画について、①地域福祉計画との一体策定、②地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略との一体策定、③分野別政策目標の現段階での検討状況について報告が行われた。

②委員意見要旨

(1)地域福祉計画を分かりやすく一体化する工夫

- ・現行の地域福祉計画で定めた重点施策や具体的な取組について、達成状況も含めて市民に分かりやすく公表してほしい。【林委員】
- ・地域福祉計画は、目指す姿や取組をより具体的に示すとともに、基本計画との関係が分かるよう整理することが望ましい。【水谷委員】
- ・一体化した計画の構成や進捗管理の方法について、分かりやすく示してほしい。【石川会長】

(2)総合計画との位置付け・整合

- ・国が示す「地域未来戦略」の動向も踏まえながら、総合計画との関係を整理し、柔軟に対応していくことが望ましい。【浦田委員】
- ・「地方版総合戦略」は、将来像や施策の大綱と重複する部分が多いため、総合計画との整合を図りながら整理するとよい。【水谷委員】

以上